

# 社会と未来を思いやる 将来の賢い消費者育成

— 自由研究講座で学ぶ「エシカル消費」 —

村岡 弘章 Muraoka Hiroaki

鳥取県生活環境部くらしの安心局消費生活センター 係長

このコーナーでは、消費者教育の実践事例を紹介します。

鳥取県では、消費者庁の「倫理的消費」調査研究会(2015年5月設置)に知事が委員として参画したことを契機に、「エシカル消費(倫理的消費)」の普及啓発に取り組むこととし、2015年度は、啓発シンポジウム、地区別研修会、テレビCM等による啓発を行いました。

2016年度からは、「鳥取県消費者教育推進計画」(2016年3月策定)に基づき、若年層へのエシカル教育(エシカル消費を理解・実践できる賢い消費者育成のための教育)に重点を置いて取り組んでいるところですが、その端緒として2016年8月に実施した子ども向けの自由研究講座(以下、講座)について紹介します。

## 講座のねらい

本県では、将来を担う子どもたちが、社会の一員として自分のことだけでなく、社会全体や未来のことを思いやり行動する消費者になるよう育成を図ることを目的に、子どもたちへのエシカル消費の講座を実施するなど、教育・啓発活動に力を入れています。

生産の現場が消費者から見えにくい現代社会にあって、子どもたちが身近な商品の生産や販売の現場を知り、自ら考え、お互いに意見を交わすことにより、子どもたちの商品選択に対する意欲・関心を高めることを主眼に、本講座の構成を考えました。本県では、将来の学校等における消費者教育の授業展開を見据え、現在、消費者教育をコーディネートする「消費者教育

支援員」を配置するとともに、独自の消費者教育教材の開発を進めているところですが、本講座はこれに先立ち、今後エシカル教育を進める際のモデル例としても役立てることとしました。

## 実践的に学ぶエシカル消費

本講座は、「子ども『エシカル・ラボ』」と銘打ち、子どもたちが参加しやすい夏休み期間中に、小学校4～6年生を対象として、県内3地区で開催しました。エシカル消費を2日間で実践的に学び、成果品は持ち帰って夏休みの宿題として学校に提出できることを売りに参加者募集を行い、3地区で計70人が参加しました。

講座は、①基礎講座、②成果品(新聞)制作に向けたグループ討議、③エシカル商品生産・販売事業所の見学・取材、④新聞づくり・発表という構成にしました(表)。

1日目の基礎講座では、エシカル消費の基本的な知識や考え方について学び、「エシカル」という言葉を聞いたことがなかった子どもたちも、講師の実例を交えた分かりやすい表現によりエシカルの世界に引き込まれ、内容をよく理解することができました(写真1)。

|             | 内容                   | 時間   |
|-------------|----------------------|------|
| 1<br>日<br>目 | 基礎講座                 | 60分  |
|             | グループ討議               | 90分  |
|             | エシカル商品生産・販売事業所の見学・取材 | 60分  |
|             | 1日目の学習のまとめ           | 70分  |
| 2<br>日<br>目 | 新聞づくり                | 255分 |
|             | 発表、意見交換              | 60分  |

表 講座の構成



写真1 基礎講座のようす



写真2 事業所見学・取材のようす



写真3 新聞づくりのようす

次に、成果品の新聞制作に向けたグループ討議では、子どもへの金銭・経済教育の専門家から、身近な商品を例に取った商品選択時のエシカルの考え方について具体的に学びました。生産・販売事業所の取材ポイント等についても事前に意見交換し、考えました。

その後、子どもたちは3班に分かれて各事業所を見学し、エシカルな商品づくりのこだわりや工夫点等に関して、取材活動を行いました(写真2)。

見学・取材後には、翌日の新聞づくりに向けて、初日の学習成果を振り返りました。

2日目は、前日の学習・取材成果をもとに、新聞づくりに取り組みました。制作指導・サポートは、本県の消費者教育支援員が担当しました。子どもたちは、協力して意見を出し合い、新聞にまとめていく作業を通じて、楽しみながらエシカル消費について学習することができました(写真3)。

## 広がる啓発効果

エシカル消費という言葉を知らなかった子どもたちも、講座が終わる頃には、「エシカル」という言葉を自然と口にしていました。「なぜこんなに大事なことを今まで教えてくれなかったのか」「エシカルを知らない人に教えてあげたい」といった感想もあり、子どもたちのエシカル消費に対する意欲と関心が高まったと感じています。

子どもたちの制作した新聞は、各自のファイルに収められ、自分なりの考察や追加研究を加え、新学期に各小学校に自由研究成果として提

出されました。子どもの視点で考えるエシカル消費が、他の児童や、教員および保護者へも広がったものと考えています。また、市立図書館や販売店等において成果品の新聞の巡回展示を行い、一般消費者にも広く啓発を行ったところ、好意的な感想等も寄せられました。

## 今後もさらなる発展を図る

2017年度は本講座を、「子ども『エシカル塾』」として家族で参加できる3回連続講座に拡充する予定です。講座修了者の学習成果をたたえ、「子どもエシカル大使」として認定し、他のエシカル消費啓発事業などでのPR活動への積極的な協力に期待したいと考えています。また、エシカル教育に特化した消費者教育支援員を配置し、各学校でのエシカル教育の授業展開とさらなる啓発活動の充実を図っていきたいと考えています。

## 受講した子どもたちの感想

- エシカルのことを知らなかったら、大人になっても何も考えずにお買物をするところだったので、今、エシカルのことを知って、考えてお買物をしようと思いました。
- この講座を受けて、エシカルの大切さを知ったので覚えておきたい。まだエシカルという言葉を知らない人にも教えてあげたい。
- エ: えいきょうを、シ: しっかりと、カル: 考える、という合言葉を教えてもらってエシカルという言葉の意味を知ることができました。新聞を作るときのポイントも教わり、良い体験になりました。